IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門（D部門）ニュースレター 2020年7月号 (<http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/nl/>)

産業応用部門英文論文誌戦略委員会の活動の見える化

Visual Report on the Task Force of JIA Strategic Committee

電気学会 産業応用部門 英文論文誌戦略委員会委員長

河村 篤男（横浜国立大学）

Atsuo Kawamura (Yokohama National University)

Chairperson of Strategic Committee on IEEJ Journal of Industry Applications, Industry Applications Society, IEEJ

本委員会は2019年4月に川上部門長の要請により主査会のメンバーを中心に発足しました。その役割は“IEEJ Journal of Industry Applications（以下、JIAと略す）のImpact Factor（IF）の獲得を目指す”というものです。委員会は最初だけ一部の委員が集まりましたが、以降はすべてZoom会議で活動しています。

JIAは2012年7月に発刊され、約8年の年月が流れました。その後、玉井前国際委員会委員長や大石前英文論文誌編修長を中心とした2018年発足の産業応用部門英文論文誌Impact Factor対策小委員会などの活動の結果、Elsevier社のScopusに登録されました。最終目標であるクラリベイト社のSCI登録を目指している途上で、編修長が交代し本委員会が発足しました。

委員会の8種類のTask Forceのうち、インパクトファクター向上に関しての活動効果を図示したものが図1です。IFはしばらく1以下の値で推移していましたが、本委員会などでの活動の結果、2017年以降IFが向上しています。さらなる引用数の増加のために、論文誌、国際会議、口頭発表の論文を問わず、JIA論文の件数程度の引用を常に心がけていただきますようご協力をお願いします。

また、査読期間を短くすることにより質の高い論文を呼び込み、JIA論文の質を向上するために、論文査読促進賞の

図1 仮計算IFとScopus引用数の推移
(桂幹事の計算と調査)

試行を昨年後半に実施しました。査読者が依頼を受けてから1週間以内に査読を終了させた場合はこの賞の対象になります。この試行期間の効果をもとめたものが図2です。上図が試行期間中、下図が試行前です。縦軸が査読日数（日）、横軸は個別査読者（ID不明）です。（興味があればネットからpdf入手して拡大を。）査読期間短縮の効果は明らかですので、現在、論文査読促進賞は定常実施しています。他部門では和文誌にこの賞を検討してみたいとの意見があることを人伝に聞きました。下図より1回目の査読に1か月以上の日数がかかっている場合が少なくないこともわかりましたので、横山新編修長により制度が改善され、1か月以内で査読を終了しない査読者は交代するとなりました。

さらに、海外からの論文への投稿料助成などの様々な施策を赤津国際委員会委員長と協力して実施中です。JIAの質の向上のための努力は学会の会員の皆様のご協力が不可欠です。その成果は学会および産業応用部門に係る産業界の活性化につながりますので、ご理解と行動をお願いします。

図2 JIAの査読日数分布（上：試行期間，下：試行前）